南湖だけの浜降祭「御幣(ごへい)参り」

岸　一弘*

1　はじめに

“暁の祭典”とも称される浜降祭は,「茅ヶ崎海岸浜降祭」として県の無形民俗文化財に指定されており，茅ヶ崎海岸は毎年多くの見物客で賑わう。浜降祭はもともと6月29日に行われていた(昌平坂学問所地理局編)が，その後7月15日となり，現在では祝日の「海の日」に行われるようになっている。

浜降祭の行われる日の午後，南湖地区では御幣(ごへい)参りが行われている。もともと南湖3社(金刀比羅神社；上町，八雲神社；中町，住吉神社；下町)が神輿を担ぎ，浜で禊を行っていたが，いさかいが起こって神輿での渡御は中止となった。その後，白木の御幣を担ぐようになったとされる(南湖郷土誌編集委員会編，1995；林　申次氏私信)。御幣参りは南湖地区だけで行われることから,「南湖だけの浜降祭」とも呼ばれている。

御幣参りについては，南湖郷土誌編集委員会編(1995)のほか，加藤・小林(2007)による報告があるが，それ以外に正式な記録としてまとまったものは見当たらない。

茅ヶ崎市が主催した「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館企画展－南湖ザミュージアム」の一環で,「南湖だけの浜降祭－御幣参りのお話」が開催された。幼少期から南湖中町で育ち，今も中町にお住まいの鈴木信幸さんにインタビュー形式でお話を伺うものだった。これまであまり知られていなかった情報もあるので，ICレコーダー(Panasonic RR-XS650)で録音した音声記録を文章化し，記録に留めることとした。

なお，現在の御幣参りの道順は図1のとおりである。

2　「南湖だけの浜降祭－御幣参りのお話」の記録

開催日時：平成30年(2018年)11月13日(火)14時～15時30分

講師：鈴木信幸さん(八雲神社責任総代)

司会進行・聞き手：原　俊一さん(ちがさき丸ごとふるさと発見博物館運営部会)

凡例

◇：司会進行・聞き手を担当していただいた原　俊一さんの話

◆：鈴木信幸さんの話

※：文章化に当たってはお話しいただいた内容をできるだけ尊重したが，話し言葉から書き言葉に変換するため，一部表現を変更し，文章の入れ替えも行っている。なお，説明が重複する部分については，一か所にまとめた。

……

◇浜降祭のあと，南湖だけで行われる神事が御幣参りです。お手元に「御幣参り道順」という地図があると思いますが，文化資料館調査研究報告 15 号(2007年)から抜粋したものです。

それでは鈴木さん，御幣参りについて簡単にお話を聞かせてください。

◆今紹介にあずかりました，中町の鈴木信幸です。浜降祭の写真を見ると年甲斐もなくうきうきしてきます。南湖に生まれて，南湖に育った人間なら，同じなのではないでしょうか。南湖だけの浜降祭，まだ生まれていないころのことなので，いつ始まったのか私はわかりかねます。もともと，南湖3社の浜降祭はあったようです。小学校に上がると同時に，親に手を引かれて浜降祭を見に行きました。私が小

神輿殿から出された御幣(2018年7月15日撮影)

さい時は，朝起こされて今の一国(国道１号)，東海道の十間坂の神社から鳥井戸橋あたりへ浜降祭を見に行った記憶があります。海岸に行っても，神輿をほとんど見られないという状態でした。東海道の縁(ふち)で，茅ヶ崎の神社の神輿が揃い，寒川さん(寒川神社の神輿)を迎えて浜へ向かっていきました。浜降祭は昔から７月 15 日にやっていました。朝は茅ヶ崎市全部の神輿が海岸に揃って禊(みそぎ)をしました。それが終わると，南湖の神輿はみなそれぞれの町内へと戻るわけです。朝から担いでいるので，一肩(ひとかた)休ませていただいて，昼のご飯を食べてすぐに中町の八雲神社の前，今南湖通りと言っていますが，金剛院の踏切から若林酒店までの間に南湖５社の神輿が自然に集まりました。神輿を担ぎながら，茶屋町の重田さん宅へ行き，それから茶屋町，鳥井戸橋のすぐ東側にある踏切を渡り，鳥井戸の神社(御霊神社)を通って，下町の住吉神社に行きます。住吉神社の境内が広いので，そこで一肩揉んで，まっすぐ南へ下りました。今の南湖公民館のはずれの道ですが，そのまま 134 号を渡り，海岸へ下りました。今ですと，ここで 134 号を渡ることは不可能ですが，当時ですと今のように広くなかったので，渡ることができました。海岸で南湖５社の神輿が禊をしました。南湖というのは半農半漁の人たちが大半で，サラリーマンは本当にわずかだったと，親から聞いています。禊をするときに，豊漁と豊作の祈願をしました。詳細が分かりませんが，海岸に向けて神輿を下ろして，役員さんが玉串奉奠(たまぐしほうてん)をされたんだろうと思います。浜での禊が終わると，またそれぞれの町内へ帰ったと聞いています。

御魂移し(2018 年7月 15 日撮影)

最初に，中町のお宮ができたと聞いています。重田さんのところにあった祠＝屋敷神を白木のようなかごに乗せて中町の神社へ据えました。この時には，まだ八雲神社ではありませんでした。少し高い場所なので，「天王さん」と呼ばれていました。石尊山とも呼ばれていました。南湖で最初に神輿ができたのも中町ですが，重田さんのお骨折りでできたということです。その後各神社にも神輿ができ，南湖５社で禊が行われるようになりました。今も南湖だけの禊をしていますが，神輿は持って行っておりません。神輿は，早朝の禊が終わると各町内に帰って，町内回りをします。

午後からの禊は，各神社の役員さんが１名，担ぎ手が１名，計２名に八雲神社へ来ていただいて，そこで担ぎ手だけが白衣(はくちょう)を着て，中に御魂(みたま)が入っている御幣を担ぎます。変わったのは，神輿が御幣になったことだけで，あとはほとんど変わっていません。

◇昔は５社の神輿が回っていたということですが，それが八雲神社にある白木の御幣を担ぐようになったというのが大きな違いということですね。各神社から役員１名，担ぎ手１名が出るという形なんですね。先ほど「一肩」という言い方をされていましたが，神輿なので肩で担いでいたことからということですね。

◆そうです。御幣に変わって，必ず神社の役員さんが付くわけですが，この役員さんは各町内の法被(はっぴ)を着て，鉢巻きを付けて来ます。担ぎ手は，神社で白衣に着替えます。今の人は体が大きく，暴れるので，綻びができたり，布が切れたりしたので，１着作り，２着作り，だんだんと数が増えてきました。今は 22 着ぐらいありますから，全員が白衣を着て回っています。昔は 12 着しかありませんでしたが，今見ると，太鼓をたたく人，御幣を担ぐ人，長持ちを担ぐ人，みんな白衣を着ているので，きれいですね。

◇頭に被っているのは，烏帽子ですね。

◆烏帽子も最初は数が少なかったんですが，白衣を着るようになると，釣り合いが取れないんじゃない

かということで八雲神社の方で烏帽子の数も揃えてあります。

◇言われてみると確かにそうですね。烏帽子があると，格好いいですよね。

◆伊勢神宮やほかのお宮さんを見ても，白衣を着て，烏帽子を被っていますね。それを南湖でも真似をしたわけです。烏帽子を被ったから偉くなった，神官のようになったというわけではありませんが。

◇足元は，地下足袋の白いものですか。

◆白の地下足袋です。農家で履く地下足袋とは違って，脛が隠れるぐらいの長さがあります。

◇ピンクの鉢巻きが見えたんですが。

◆ピンクは中町の印です。神社ごとに色が違います。上町は赤，下町は黄色，鳥井戸は緑，茶屋町は水色ですね。

◇御幣参りに参加されている方は，各神社のものを付けて構わないということですね。

◆各神社から代表で出てきているものですから，各神社の鉢巻きを付けています。

◇昔から御幣を担いでいたのではなくて最初は神輿を担いでいたということですが，鈴木さんが幼い頃すでに御幣を担いでいたのでしょうか。

◆私が小さい頃はまだ神輿で，御幣になったのはずっと後だと思うね。大人になる頃だったかな…，でもよくわかりません。茶屋町は，まだ神輿がなかったね。鳥井戸も，最初は小さい子供神輿でした。

◇今，鳥井戸とおっしゃいましたが，御霊神社のことですね。

◆そうです。

◇御幣参りは浜降祭と同じ日に行われていますが，昔からそうだったのでしょうか。

◆神輿で回っていた時代から午後で，それは変わりません。コースも変わりません。神輿の時は，海岸で禊をして，各神社へ帰って解散でした。御幣になると，海岸で禊をして中町のお宮へ帰ってきて，お神酒をいただいて，みなさん各神社へ帰って行きました。

◇戦争という時代がありましたが，その時でも(御幣参りは)行われていたんでしょうか。

◆浜降祭は，戦争後に一度だけ休んだことがありますが，あとは，雨が降ろうと台風が来ようと休んだことがないと聞いています。浜降祭が行われれば，御幣参りもしていたと思います。

◇事前に鈴木さんにお話を伺った時に，「戦時中よりも戦後の方が大変だったよ」というお話をお聞きしたのですが。

◆この辺は戦争といっても，米軍の爆撃はほとんどありませんでした。B29 が空高く飛んでいるのを，「あれが敵機だよ。爆撃機だよ」と見ていたぐらいです。ただ，終戦間際に平塚の火薬廠(しょう)が焼かれて，平塚の町が大火事になりました。

終戦後の方が大変でした。半農半漁ですから，不漁だと丘(農業)が主になります。雨が多いと作物は取れません。日照りであっても，作物は取れません。そうなると，食べることができないんです。大きい農家の方は，それほどじゃなかったと思いますが，ほとんどが人の畑を借りている小作人だったので，作物ができてもできなくても年貢を納めなければいけないので，食うや食わずでした。1反(990 ㎡)に対して，いくらか納めるというような具合でした。寒川，小出あたりへ歩いて行って，親の物とお米を物々交換していただくようでした。

小麦を練ってフライパンで焼く“かっぱ焼き”がありましたが，砂糖はないので醤油をつけるぐらいでした。今ならなんでそんなことをしたんだと笑われますが，一升瓶を持って海岸へ行って，海水を汲んできました。ワカメが打ち上っているので，これを取って煮詰めれば色が出ます。塩水と醤油を少し

八雲神社を出発する御幣参りの一行(2018 年7月 16 日撮影)

混ぜて使っていました。食べなければいけないので，今のように大腸菌の心配をするようなことはありませんでした。おばあさんは，手で下げるのは骨なので，唐草模様の風呂敷を２枚ぐらい背負って持ってきました。その当時は乳母車もないので，みんな下道（したみち）や大謀道（だいぼう）を背負ってきました。

◇ちょっと補足しておきます。先ほど１畝（せ），１反と言われていましたが，１畝は30坪です。一反は300坪です。南湖の浜にブリを捕るための大謀網を仕掛けていましたが，そこに行くための道を大謀道と言っていました。

◇浜降祭の前の日に，南湖の浜にふんどし姿で入って体を清めるということを聞いたことがありますが，本当なのでしょうか。

◆南湖では下町の１社だけです。御魂の入っているものを触るので，自分の体を先に清めようということで，下町の方が禊をされています。ほかの町内では，そういうことはしていません。

◇御幣参りで八雲神社を出発する時には，どういうことをしているのでしょうか。

◆暑い中を回るので，体に気をつけてくださいということをお願いして，一献を交えます。

◇御幣が各神社を回る時に，各神社で神事をするというのはどのようなことでしょうか。

◆各神社に寄って御幣を着座させて，玉串を上げて，お参りします。各神社から，神社役員か自治会役員が代表で１名出ているからです。

◇八雲神社から金刀比羅神社，重田家，大神宮，御霊神社，くまじ寝具店，住吉神社という形で巡りますが，江戸屋の重田さんに寄るのは，鶴嶺神社とのいさかいと関連するのでしょうか。

神饌物などが入れられた長持(2018年7月16日撮影)

◆昔は，鶴嶺八幡様の神輿を一国の鳥井戸橋まで鶴嶺の人たちが担いできて，そこから南湖の人たちがバトンタッチして海岸へ行きました。夕方には，必ず神輿を鳥井戸橋のところで鶴嶺の若い衆にバトンタッチして鶴嶺さまに返していました。ある時に，時間が来ても神輿を渡さずにまだ担いでいることがあり，大きく揉めたらしいんです。その時に中に入って仲裁されたのが，重田さんのご先祖と聞いています。そういうことがあったので，必ず重田さんへお礼に行くことになりました。

◇ありがとうございます。この道順なんですが，神社と重田さん以外にくまじ寝具店の前で神事をする理由はなんでしょうか。

◆八雲神社がまだ石尊山と呼ばれている時代に，江戸の方から大山参りに出てきて，石尊山に寄りました。今も見えますが，石尊山から大山が真正面に見えます。参道を西側に下がっていくと，くまじさんにぶつかるわけです。ここが，御幣参りの道と交差します。「大山道に別れを告げて行きましょう」ということでくまじさんに立ち寄って，そこで休憩することになりました。今は長持の中に神饌（しんせん）物ぐらいしか入っていないんですが，私が若い時にはくまじさんまで回ってくる間にお酒が一升瓶で 10 本ぐらいたまっちゃうんですよ。そこで，長持から降ろしたわけです。

◇御幣参りのコースというのは，どのように決まっていたんでしょうか。

◆御幣参りのコースをだれが決めたのか知らないけど…。

◇一筆書きに近いですね。もうすでに鈴木さんからご説明いただいていますが，御幣参りの担ぎ手は南湖５社ということですが，担ぎ手には条件があるのでしょうか。「俺も担ぎたいな」という人もいるかと思いますが。

◆各神社の代表で来ているわけですから，町内の役員ということです。他の人や２，３年前に越してきた人が入るわけにはいかなかったのですが，現在は

わかりません。

◇行列の並びは決まっているのでしょうか。

◆御幣の行列の順序ですが，一番最初は旗持ちですね。旗持ちの後は，神官が付いて，各神社の役員さんが付いていると思うんですが。太鼓は触れ太鼓なので長持より先です。その後が長持，御幣が着座する台なんですが，まごまごしていると長持が先に行ってしまうこともありますね。ばらばらになって，何が何だかわからなくなってしまうこともあります。太鼓の鳴らし方ですが，神社と神社の間では鳴らす間隔が長いんですが，神社に近づくと間隔が短くなります。「御幣が来るぞ」という知らせ太鼓になります。上町を出て，金剛院の踏切あたりまでは，感覚が長いですね。金剛院の踏切を渡って，一国の近くでは重田さんに聞こえるように，「ドーン，ドーン」と間を短くします。出発前に，打ち方を説明していますね。

◇行列の太鼓，のぼり旗などの特別な名前があるのでしょうか。

◆特別な名前はないですね。

◇御幣は，八雲神社に保管されているのでしょうか。

◆祭りが終わると，八雲神社の神輿殿に収められます。

◇御幣参りの時に掛け声がないと聞いていますが，それはなぜでしょうか。

◆神官に直接聞かないと分からないんですが，かつて御幣は暴れるだけ暴れないと，「魚が入らないよ，作物も枯れちまうよ」言われていました。御幣を担いだら，頭が取れるほどに踊り回りながら担いでいました。

御霊神社での神事(2018 年7月 16 日撮影)

◇その時には掛け声もあったのでしょうか。

◆どういう掛け声だったか分かりませんが，掛け声をかけながらだったと思います。

◇掛け声がなかったら，暴れる時に調子が取れないですね。

◆長持の蓋は，への字になっているので開きやすいんです。蓋をたたきながら通り，ひどい時は蓋を壊してしまいました。静かに担ぐというのは，私は聞かなかったですね。伊勢神宮では，静かに担いでいますね。

◇御幣の一行が来ると神輿を担いでいる神社は道を開けますが，どうしてでしょうか。

◆御幣には町内の役員が１名携わっていて，その役員が御魂を守っています。御幣が来れば，「お通り下さい」ということで，神輿は避けます。

◇御幣は白木造りですが，昔から白木造りなんでしょうか。

◆今の御幣は昭和 53 年に新しく造られたものですが，白木で何も塗っていないですね。

◇浜降祭には八雲神社の鳥居やくまじさんのところに蛇飾りが飾られていますが，これは南湖だけなのでしょうか。

◆蛇飾りは南湖だけじゃないと思います。他の神社でもやっているはずです。茶屋町は鳥居がないから，蛇飾りはないですね。蛇を造って，海の神様に「静かにしてください」とお願いするわけです。中町の蛇飾りは３か所ありますが，八雲神社では蛇の頭を海の方に向けます。次は反対に北へ向け，３つ目の頭は海の方に向けます。蛇飾り，昔は麦わらで造っていましたが，今は小麦を作っておらず，風除けに作っているぐらいです。麦わらを調達するのが骨ですから，稲わらで代用するようになりました。中町では，どうしても麦わらを使いたいということで，御所見あたりまでもらいに行っています。今はコンバインで刈ってそのまま脱穀されてしまうので，農家が麦を刈る時に取りに行っています。

◇この写真で，蛇の頭はどちらなんでしょうか。

◆頭は右ですね。

八雲神社の蛇飾り(2018 年7月 15 日撮影)

◇どなたが蛇を造るんですか。

◆町内で誰がやれということではなくて，自然に上から下へと引き継がれていますね。

◇私は本村なんですが，麦畑のところにイモの苗を植えていました。南湖で麦は風除けのために作ったとのことですが。

◆昔は，麦の根にサツマイモを植えていましたね。麦を鎌で刈りますが，サツマイモの蔓が伸びてきているので,「刈る時にイモを刈るな」と怒られました。今は芋畑がないので，畑の縁に風除けで植えている程度です。

◇長持の中について，もう少し詳しくお話しいただけますか。

◆長持の中は，たいしたものが入っているわけではありません。長持が着くと，三方(さんぼう)に玉串を乗せます。神社では，責任役員の方１名と自治会長さん，神輿保存会さん１名の３名で，玉串奉奠をやっていただきます。重田さんのところは家族全員なので，６～７本です。くまじさんは２～３名です。長持の中には，三方が３つ，玉串が何本か，お供えをする果物，ナス，キュウリ，ニンジンなどの神饌物が入っています。一番重いのが，お酒です。昔は海岸で飲むための茶飲み茶碗が十何個か入っていましたが，近年は紙コップになって軽くなりました。

◇御幣参りの最後，八雲神社に帰って来た時にどのようなことをされているのでしょうか。

◆八雲神社に帰ってくると，やはり最初にお酒が出ます。八雲神社では，煮付けとか酒のつまみも用意しています。ビール，お酒を飲んでご苦労様という形で解散となります。

◇御幣に入っていた御魂は，戻されるのですね？

◆十何年前は,能條さんという神官がおられました。中町に住んでおられました。鶴嶺八幡の能條さんの縁者です。能條さんが南湖の上，中，下，茶屋町，鳥井戸の神社の神事をすべてやってくださいました。神輿が出て行くのは早朝なので，前の日に神輿の中へ御魂を入れていました。昼に神輿が海岸から帰ってくると，御魂を取り出し，御幣に入れて，午後から御幣参りとなります。今南湖の神官はお住まいが大和なので，なかなか来られないという状況です。そこで，前日神輿の中に御魂を入れる時に，御幣にも分けた御魂を入れます。当日は夕方でないと神官が来られないので,御幣を社殿前に着座させておき，夕方に御魂返還となります。

◇保管されている時には，風通しなどもされるんでしょうね。

◆どこの神輿もそうだと思いますが，神輿保存会が管理していて，帰ってくると水洗いして乾拭きし，きれいにして納めます。中町では，約一か月日曜ごとに４回ぐらい風通しをします。御幣は，そのようなことはしていません。

◇これで御幣参りについて一通りお話しいただきました。皆さんの方からの質問をお受けしたいと思います。

国道134 号を渡る御幣参り一行(2018 年7月 16 日撮影)

質疑応答

質問）大和の神官は，どちらの神社の方ですか。

◆大和の神官の大村さんがどこの神社の方なのか，

分かりません。南湖では，上，中，下，茶屋町，鳥井戸の神社すべてと，中島，中海岸をやっていただいています。大村さんには兄弟がいて，室田の八王子神社は弟さんがやっています。

質問）３つほど質問があります。昔の御幣参りの担ぎ手は中町だけだったと記憶しています。今は５社の役員さんが担いでいますが，いつごろから今のような形になったのでしょうか。大神宮がいつの段階で加わったのか,「白ちょう」と言われていましたが,「ちょう」は漢字でどのように書くのでしょうか。

◆「白衣」で，はくちょうと読んでいます。昔は中町だけで 20 何名分揃えていました。中町は，10 か 11 班に分かれています。各班の一つの組が交代で，一年間の祭礼について全責任を持ちます。ご飯，お茶，お茶菓子まで準備します。御幣参りも，一つの組が太鼓から何から全部やっていました。でも年々担ぎ手が少なくなって，下町さんの提案で，下町，上町，茶屋町，鳥井戸４社からも役員さんと担ぎ手を出していただくようになりました。いつごろからだったのか，はっきりとは分かりません。茶屋町の大神宮は，いつごろからかなあ…。一国を渡って，富士見橋の手前左側に，お社があったんです。開発するときに，亀井工業の横に移動しました。昭和になってからでしょう。

質問）昔からお社に寄っていたんでしょうか。

◆その当時はまだ寄っていませんでした。移動したあと，寄るようになりました。南湖５社でも，茶屋町の神輿が一番新しいんですね。

質問）神輿の御魂は鏡のようなものなんでしょうか。それとも，形のないものなんでしょうか。

◆御魂を見ると目がつぶれると言われていて，御魂がどんな形をしているか，三角だか四角だか，光っているものだか，見たことはありません。神官がお社から出すときには衣に包まれているので，神官も見たことがないでしょう。

３　おわりに

平成 30 年 11 月 28 日,鈴木信幸氏(以下,鈴木氏),秋本武久氏(以下，秋本氏)から御幣参りについて追加情報を得ることができた。

浜での禊

御幣参りが始まった時期は定かではないが，秋本氏によれば昭和 30 年代だったのではないかとのことである。筆者は，昭和 40 年代半ばに中町の役員だけで担いでいたことを記憶している。

鈴木氏によれば，御幣はにぎやかに担ぐものであるとのことである。しかし，平成 30 年の御幣参りはおごそかなもので，一行の一人が持つラジカセから流れる雅楽の音が静かに流れ，太鼓も静かにたたく程度であった。

秋本氏によれば，「御幣参りは本来にぎやかに行うものであり，八雲神社も出発する際にもにぎやかにお願いしますと伝えているが，近年は恥ずかしいと思う担ぎ手もいるので。」とのことだった。

また，行列の順序はかつてのように厳格なものではなくなってきている。これも時代の流れなのであろう。

鈴木氏によれば，今の御幣は２代目で，昭和 53 年に鈴木氏の営む鈴木建具店の職人さん（４人）によって造られたものとのことである。

秋本氏によれば，初代御幣はお焚き上げされたのではないか，とのことだった。

神社などの鳥居に飾られる蛇飾りはもともと各神社が小麦で作っていたが，小麦の入手が困難になった現在でも中町だけは寒川町の御所見までわざわざ小麦をもらいに行き，こだわりを持って蛇飾り作り続けていることも興味深い点である。

謝辞

本稿をまとめるにあたり，種々お世話になった八

雲神社責任総代の鈴木信幸氏，御幣参りについてご教示いただいた茅ヶ崎郷土会会長の平野文明氏，中町自治会長の林　申次氏，八雲神社総代の秋本武久氏，ちがさき丸ごとふるさと発見博物館運営部会の坂井源一氏・原　俊一氏，本事業を企画していただくとともに，コース図を作成していただいた社会教育課の三谷恭子氏ほか関係各位に感謝申し上げる。

参考文献

加藤幸一・小林　晃，2007．南湖だけの浜降祭「御幣参り」を観る．文化資料館調査研究報告,(15)：37-44.

南湖郷土誌編集委員会編，1995.南湖郷土誌．資料館叢書,(11)：191．茅ヶ崎市文化資料館.

昌平坂学問所地理局編，1841．新編相模国風土記稿　巻之六十一　村里部　高座郡巻之三：286.

*地域を学ぶ会

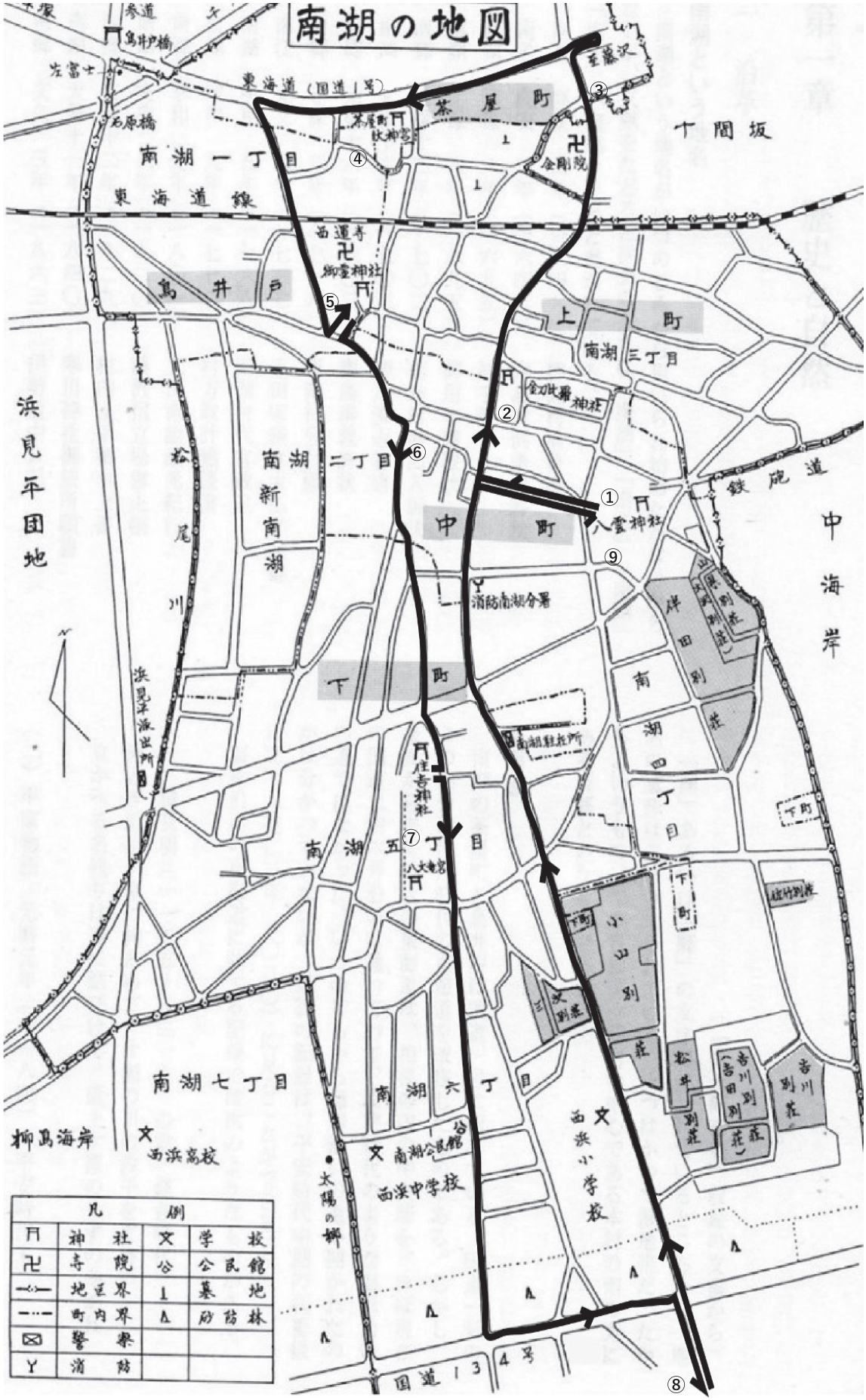

図１．平成30年現在の御幣参りの道順

①：八雲神社　②：金刀比羅神社　③：重田家　④：茶屋町大神宮

⑤：御霊神社　⑥：くまじ寝具南湖店　⑦：住吉神社　⑧：禊場(浜)

※南湖郷土誌に掲載されている「南湖の地図」をもとに加筆修正